

民俗資料館だより

第10号 2003. 3. 31

発行 加茂市民俗資料館 電話 0256-52-0089
住所 加茂市大字加茂229-1 FAX 0256-52-0089

気軽に見学できる民俗資料館

加茂市民俗資料館長 中 滝 孝 明

皆様方には、日頃民俗資料館をご利用いただきまして有り難うございます。

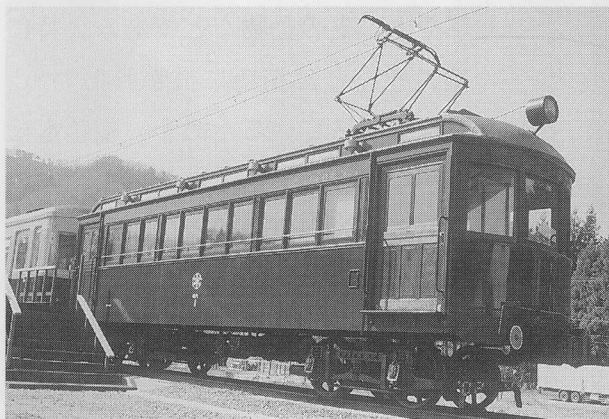
当民俗資料館は、郷土への愛着心の高揚と、先人が培ってきた歴史や文化の資料などを後世に伝えることを目的として、昭和49年8月に旧下条中学校の校舎を転用し開館いたしました。その後平成6年11月には、加茂山公園内にあった旧図書館に移転し、装いも新たに一步を踏み出しました。これが現在の当資料館で、旧民俗資料館で20年間、現民俗資料館で9年余りが経過し、その間多くの皆様にご利用いただけてきました。

現在全体の収蔵品としては、約20,000点ありますが、そのうち約1,200点を館内に常時展示しております。展示品は、加茂の祭り、歴史、古文書、また市内から出土した石器や土器などから、加茂の産業の歴史に関連した建具の製造工程や木工の特産品、漢方薬の製造器具、加茂縞の機織り機、陣ヶ峰瓦、紙すき用具など、いずれも日常では見る機会のほとんどない貴重な資料ばかりとなっています。

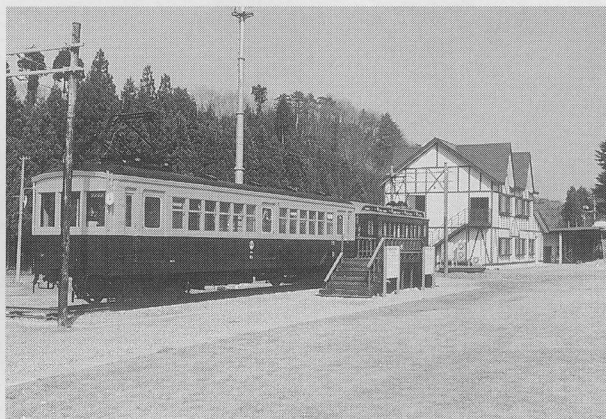
また、当資料館は非常に恵まれた自然環境の中に位置しており、見学される皆さんも、加茂山の散策の折りに立ち寄られる方や春の雪椿まつりにあわせて訪れる方々から、趣味のグループとして訪れる方々、あるいは小学校の課外授業として利用する児童たちなど多岐に及んでおります。目的はそれぞれ異なっておりますが、いずれの皆さんからも大変喜ばれています。また、ときには市外の方から当資料館収蔵品の内容について問い合わせを頂くこともあります。

どうか、皆様方におかれましては、今後ともお気軽に当資料館をご利用いただきますようお願い申し上げます。

平成13年加茂市文化財指定



県内最古の木製電車モハ1号



半鋼製電動客車モハ61号

宮寄上岩野の石動神社格天井絵図について

加茂市文化財調査審議会委員 中野保栄

栗ヶ岳を源として加茂川は、宮寄上の岩野部落を縫うようにして流れている。この栗ヶ岳の山麓に部落を見下ろすように、標高283メートルの石動山が続いている。石動山の裏側に小乙川が流れていて、小乙部落を縦断している。

江戸時代の末期には小乙川の上流部に鉛鉱山が開山され、鉛の鉱石が掘り出される。その鉱山の関係者達の信仰を集めて、石動神社は石動山の頂上にあったといわれている。当時岩野部落が宮寄上村といわれていた頃、その村の肝煎であった中野六左衛門が祀ったという。石動山の頂上には今でも石祠が残っており、石灯笼や鳥居の破片が散乱している。石動神社は嘉禄元年（1225年）の勧請と伝えている。この辺の事を長谷川昭一氏が、「加茂の風土記」に寄稿



石動神社鳥居

されておられる。社に通ずる道に建つ石灯笼には嘉永7年（1854）、石動大権現、金比羅大権現、願主は中野新左衛門、中野百右衛門、安（阿）部三太郎と刻まれている。石動大権現が石動神社に改められたのが明治の初めであった。境内にある一対の石灯笼は、文化2年（1805）7月に小柳長助が寄進したものだ。石動山を背にし西を向いている社殿は、東西4.5メートル。南北6.3メートルで、亜丹葺きの屋根になっている。外側は朱の跡が残っている。元文3年（1738）7月、寺泊の大工遠藤久四郎の建築による。

その後笹葺屋根の修繕が行われ、昭和28年になって笹葺屋根が亜丹に改繕された。また宮杉が何本か切られ、その代金で改繕の費用が充当されたようである。現在では社殿が傾いてきたので、家屋の倒壊を防ぐため、支柱を2ヶ所とまわりの四面に筋交いを入れて、暴風雨に備え



石動神社正面

ている。社殿の内部の天井を仰ぐと、格天井で70枚の絵がはめ込んである。絵柄は春、秋の七草や十二支の動物などである。特に親子の猿の絵などは精巧に描かれている。良質な絵具を使っているためか、変色もせずあざやかな色彩を保っている。その内の一枚の絵には「狩野梅笑藤原国信門人、古川笑栄藤原国儀、皆画」の添画があり、刻印がされている。狩野派門人であった絵師一人が70枚全部を描いたものだということができる。ところが一枚盗難にあったのか、

欠けているのが残念である。

石動神社格天井絵の作者について調査した範囲内では、武田恒夫「狩野派書画史」などによると、江戸深川水場町に狩野梅笑（師信、文化4年12月没、年80）がおり、その孫に梅笑（一信）、さらにその孫に梅笑（玉元、勝玉昭信）がいる。鈴木牧之の「夜職草」によると、天明3年（1783）牧之は六日町今成家に滞留中の狩野梅笑に20日間ほど絵を習ったという。鈴木牧之顕彰会の「牧之」はこの梅笑を法橋玉元としている。古川笑栄藤原国儀については、「狩野派書画史」や荒木常能「越後書画名鑑」にもない。

拝殿の北側には明治36年（1903）の「俳諧之発句」と題する額が献納されている。中野小次、中野徳太郎が願主で、安中太郎、弥久保栄運が補佐として村内の俳句愛好者を募っている。選者は、この頃著名な宗匠、中大谷の潮華亭旭浦であった。

現在では、宮寄上岩野部落の石動神社の氏子は、全戸数の約6割に当たる38戸がお宮を守っている。毎年4月15日と8月27日になると祭礼が行われている。4、5年前から氏子達が集まって、先づ屋根の雨もりが心配だということで、葺替えの相談をしているという。部分的な改築では事態の収拾が収まらない。総合的な手直しが必要となってくるが、費用が嵩むので考えさせられる。いづれにしても早急な対応が必要である。

資 料

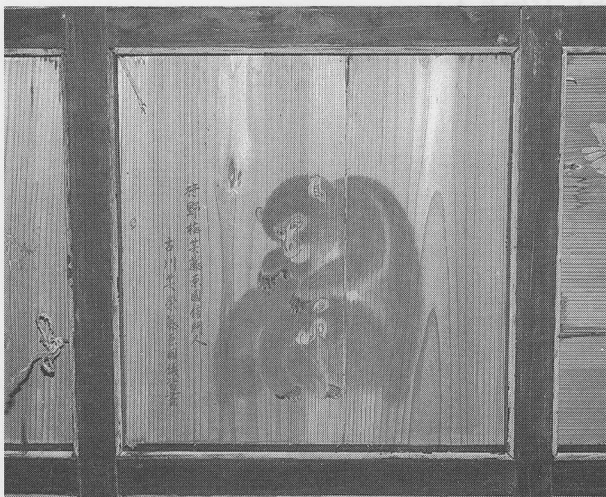
石動神社氏子総代 中 野 久二郎

石動神社屋根改繕に就而

畏石動神社者元久三年戊午天初秋七月廿七日吉辰に造立施志者に而時之祠官藤田安藝守藤原吉次氏垂願主中野新左衛門寺泊住大工遠藤久四郎此社於建垂爾後屋根之笹葺之爲十年目位に修繕勞施来至我最近笹葺不足登其之爲時代之趨勢に鑑末氏子一同協議志經濟の且又其他之諸点於熟慮考究而茲に屋根之改繕之必要に感垂丹葺西登爲事に極乗改繕費捻出之爲社木十数本於売却此代金之に充當施里依而是於記而永久に傳巧

元久3年（1858）83代土御門天皇の代、屋根を亜丹に工事の時代参考昭和28年7月27日

私達の鎮守宮の石動様は能登国（石川県）の石動神社の分社ではないかといわれています。宮寄上の部落が鉾山の最盛期に中野新左衛門が中心になり、山の頂上に建て石動神社と名付けたのだろう。集落を眼下に見下ろせる絶景の地だった。



石動神社格天井画

民俗資料館 平成14年度の歩み

1. 入館者数

平成14年4月

）

平成15年3月

	市内	市外	計	団体
大人	231	857	1,088	5
小中学校	429	172	601	12
計	660	1,029	1,689	17

2. 資料収集の状況

本年度は3名の方から11件12点のご寄贈賜り御礼申し上げ紹介させていただきます。

〈寄贈・寄託品名〉

- ・前びき鋸 ・電蓄 ・フツ（お櫃） ・5段の重箱
- ・自在鉤 ・氷切り鋸 ・鋸目立て道具 ・ヤス
- ・火のし ・木がね ・キセル製作道具（2点） ・丸太用鳶口
- ・材木止めクサビ ・米俵用手鉤 ・矢立て ・半切りたらい

〈寄贈者ご芳名〉

- ・樋口 広明 氏 ・横山 直也 氏 ・佐野 金治 氏 ・石附 信一 氏

3. レファレンス・サービス及びアンケート調査（民俗資料館への問い合わせ）

レファレンス11件、 アンケート・調査17件

A レファレンス・サービス

- ・「雛田松溪」について
- ・加茂市街地の「八橋」について
- ・寺の線香台（200年くらい前のもの）に細工人の名前があるが、当時「細工人」という呼び方について知りたい
- ・加茂山の「要害城」について
- ・「松原人形についての解説」と「製作方法」が知りたい
- ・「七谷地方の遺跡の特徴」について その他

B アンケート・調査

- ・平成13年度博物館園活動調査・「全国博物館園職員録」資料提供について
- ・市町村立博物館等の観覧料の状況について
- ・平成14年度生涯学習・社会教育施設等調査
- ・「全国博物館園調査」アンケート調査 その他

4. 博物館実習生受け入れ

新潟大学 女子学生 2名 9/24～10/2

5. 館 外 活 動

① 古文書講座

加茂の歴史に深く興味を持ち熱心に受講された皆様、ご苦労さまでした。

受講生の多くが古文書に精通しておられ、それぞれに加茂の歴史について博学であられるのに驚きを感じています。受講者延べ162名

○日時 9月3日 9月10日 9月17日 9月24日 10月1日

各火曜日 午後7時～午後8時30分

○会場 加茂市民体育館内 公民館 第1研修室

○講師 加茂市文化財調査審議委員

関 正平 長谷川昭一 丸山朝雄 溝口敏磨 佐藤賢次 各氏

○内容 共通テーマ「江戸時代の暮らし」

第1回 関 正平 氏

「岩井可保世の素顔」 天保13年7月

- ・倉松旅籠渡世の間、芝居出歩きのところ改革により本業専念の請書
- ・芝居興行により町役場への倉松など女房請書 弘化2年6月 等

第2回 長谷川昭一 氏

「加茂紙関係文書を読む」 天保10年3月

- ・楮苗買い入れの一件詫び証文 嘉茂町一重太郎 大橋家文書
- ・滞納楮代金分割払いについての誓約書 大谷地村借用主 五郎助
- ・新発田藩御用楮売買契約書

第3回 丸山 朝雄 氏

「鵜森三社由来書」 寛政7年卯年

- ・若宮三社大権現ハ奉祭処、稚日女尊一丹生都姫命一足仲彦尊此の三柱の御神也
神太夫十四代之孫 田代山代守平辛所蔵

第4回 溝口 敏磨 氏

「手習諸案集」 明治14年巳年

- ・永代譲渡申田方之事
- ・借用申金子之事
- ・発記頼母子證文帳
- ・無尽引宛証文之事

第5回 佐藤 賢次 氏

鵜森西方勝男家文書

「文政七年旧家之者御札ニ付書上控え」
を読む。



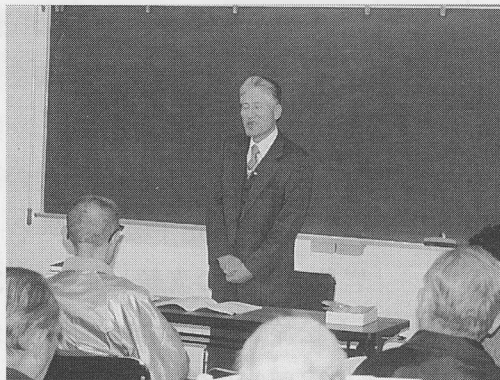
佐藤 賢次 先生

② 歴史講演会

千年前の蒲原平野の真実を知ろうとする探究心に、聴講者一同引き込まれた。今後とも、一層歴史の解明に期待したいと思います。聴講者48名

- 日時 11月16日(土) 午後2時～午後4時
- 会場 加茂市民体育館内 公民館 第1研修室
- 講師 加茂市文化財調査審議委員 丸山 朝雄 氏
- 演題 「平安時代の蒲原平野の遺跡」－11世紀頃の空白の謎－

- ・ 11世紀は偶然にも康平の地図(1060)のように蒲原平野が水没していたので、生活跡が見られないのではないか。
- ・ 太古の昔から蒲原平野には先祖の生活跡が見られる。
- ・ 蒲原平野の天然現象を的確に報告し、記録する機会と機関を失した時代であった為、「11世紀の空白の謎」となったのであろう。



丸山 朝雄 氏

③ 特別歴史講演会

諸事、ご多忙にもかかわらず快く講演を引き受けていただき深く感謝しております。一つの歴史を多角的に検証する大切さ、面白さを教えてくださいました。聴講者84名

- 日時 15年3月1日(土) 午後2時～午後4時
- 会場 加茂市文化会館 小ホール
- 講師 長岡市立中央図書館長 稲川 明雄 氏
- 演題 戊辰戦争史「長岡城奪還戦にいたるまでの戦闘経過」

- ・ 長岡城落城後長岡藩兵が加茂に至るまで。
- ・ 村松藩家老加茂にて切腹。
- ・ 加茂に長岡藩本陣が入る。会津諸将と軍議。
米沢藩兵と会津藩兵が加茂に進出する。
- ・ 加茂軍議一市川正平治方を軍議所とする。
河井継之助の計画により進軍・軍令を定める。
- ・ 今町の戦いー戊辰戦争中最も華々しい戦い。
栃尾方面の諸隊を加茂に集結、本道一山本隊間道一河井隊、破竹の勢いで与板まで奪う。
- ・ 赤坂峠の戦いー米沢・村松藩兵と合流し応戦村松藩兵多数戦死ー味方同志の戦いか。
- ・ 加茂本営一牧野八左衛門隊周辺を鎮圧。
- ・ 長岡藩家老 稲垣平助ー加茂町より見附へ難を逃れて主従共に潜伏する。



稲川 明雄 氏

加茂市の遺跡 平成14年遺跡発掘調査について

加茂市教育委員会社会教育課主査 伊藤 秀 和

本年の遺跡調査は開発事業に伴うものは少なく、加茂市史編纂事業に伴う学術調査を1件行った。学術調査は加茂市では初めてである。

1. 丸山遺跡—旧石器時代—

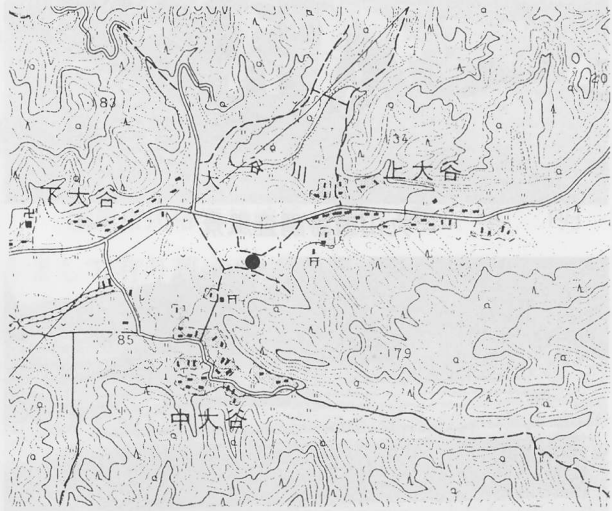
所在地 加茂市大字上大谷字中道

調査面積 約74m²

調査期間 平成14年4月27日～5月4日

調査原因 市史編纂事業に伴う学術調査

調査の概要 丸山遺跡は加茂川の支流大谷川左岸、標高約95mを測る丘陵から舌状に伸びた段丘上に立地する。調査地の現況は畑である。石器集中地点は検出できなかったが、約80点程の石器が出土した。石器の種類と点数はナイフ形



丸山遺跡位置図 S=1/25,000

石器（木の棒などの先につけヤリに使った狩りの道具）5点、彫器（先端を打ち欠き鋭い刃をつくりだした万能ナイフ）9点、彫器削片（彫器の先端の刃が純くなり新たな鋭い刃をつくりだすときに削りかす）14点、スクレイパー（加工物を薄く削り取る作業に使われた道具）6点、石刃（石器の素材として用意された石のかげら）12点、石核（石器の素材が剥がされた後に残った石塊）1点、その他に石器の調整時に生じる剥片が多く見られる。石材は大半が硬くしまった珪質頁岩で、他に玉髄や鉄石英、凝灰岩が見られる。加茂川流域では採れない石材もあり、やや広域の活動範囲を考えさせられる。

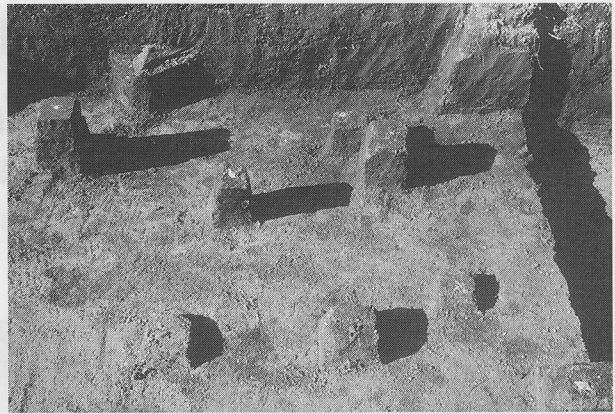
石器の年代は彫器とナイフ形石器との組み合わせから、中部地方を中心に発達した「杉久保型ナイフ形石器文化」に属するものと理解できること、新潟大学の高浜教授のご協力により、遺跡内堆積土の火山灰分析を行った結果、約1万4千年前頃に降り積もった浅間—草津軽石（As-Kグループ）の下部及び約2万5千年前頃に降り積もった南九州の始良カルデラを噴出源とした始良Tn火山灰（AT）の上部から石器が出土していることが判明したことから、約2万年前頃の後期旧石器時代のものとして間違いないと判断される。石器の出土層の火山灰分析による位置づけと石器群の全国的な年代観とは矛盾しない。

遺跡の性格としては、出土した石器の点数が少なく、この地で長期間たくさんの石器を製作した形跡がないことなどから、狩猟活動の途中に立ち寄ったキャンプ地と推測される。石材の詳細な検討から移動ルートなどが解明されることが期待される。

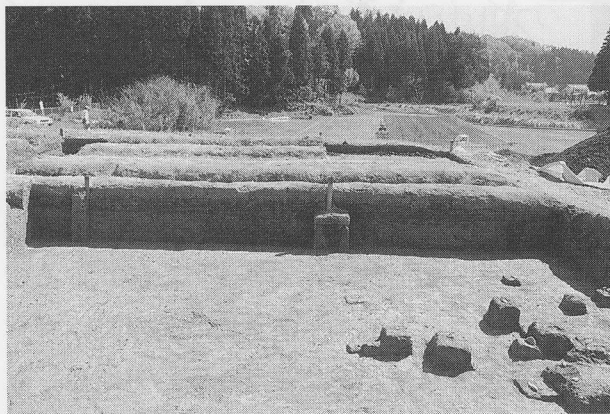
加茂市内では加茂川上流域に後期旧石器時代の遺跡が他に4遺跡（牛ヶ沢B遺跡・山王原遺跡・岩野原B遺跡・初田遺跡）確認されていたが、いずれも数点の石器が採集されているだけであった。今回の調査で石器の組成や火山灰分析から年代が明らかとなったことは大変重要な成果である。丸山遺跡は今のところ加茂市内最古の遺跡に位置づけられる。かかる重要な点から再度確認調査を実施し、遺跡の範囲を明確にし、史跡公園化する計画がある。



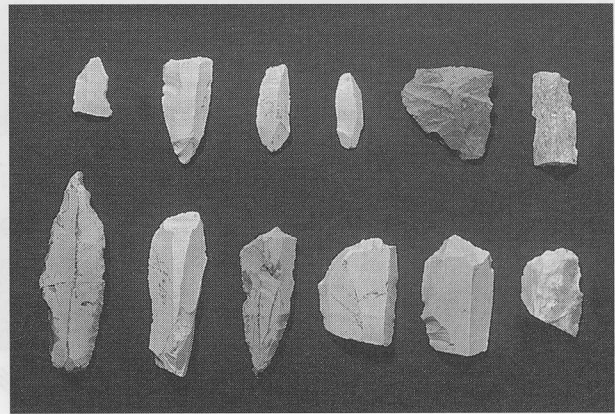
丸山遺跡調査風景



丸山遺跡石器出土状況



丸山遺跡土層断面



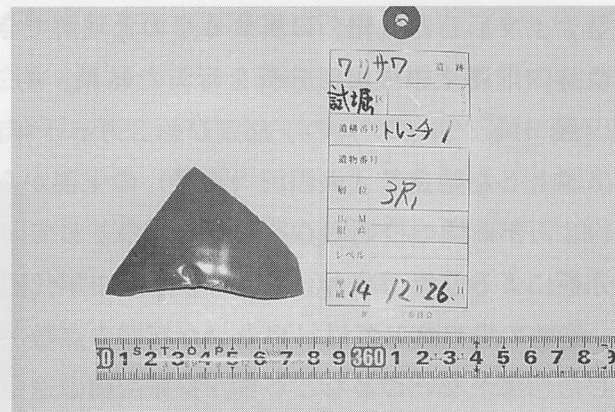
丸山遺跡出土石器

2. 開発に伴う市内遺跡試掘・確認調査

林道拡幅工事に伴い、上条地内に所在する割沢遺跡の確認調査が行われた。調査は1日間で、2トレンチ、合計約11m²で内容確認が行われた。調査の結果、明確な遺構は確認できず、1トレンチから青磁の碗が1点出土したのみであった。遺物は鎌倉時代頃のものと思われる。大皆川下流域には上條館跡などが存在し、何らかの関連性を窺わせる。



割沢遺跡1トレンチ土層断面



割沢遺跡出土土器

編集後記

平成14年度は世界情勢も経済情勢もどの様に理解してどの様に対処すれば良いものか戸惑いの多い1年ではなかったでしょうか。形こそ変化しているが歴史は繰り返すのか。

この度、ご多忙の折りにもかかわらず玉稿をお寄せ頂きました中野保栄氏（加茂市文化財調査審議会委員）に感謝申し上げます。

今後とも皆様方のご支援・ご協力をお願いします。